

平成31年

3月1日(金)~7日(木)

回覧

春の火災予防運動

「忘れてない? サイフにスマホに火の確認」

(平成30年度全国統一防火標語)

●昨年、岡崎市内では98件の火災が発生しました!

出火原因として最も多かったのが「たき火」16件、次いで「放火・放火の疑い」14件、「ストーブ」「電気機器」が共に6件となっています。

(平成31年1月1日時点)

例えば・・・

- 高温になった純正品でないヘッドライトバルブが脱落し、付近に接触したことにより出火
- 電気ストーブのそばに置いてあった可燃物が輻射熱により発火
- モバイルバッテリーが過充電されたことにより発火
- パソコンの電源ケーブルが半断線したことにより出火

火災を発見したら、
すぐ**119番通報**してください!!



●放火による火災を防ぎましょう!

全国でも出火原因で多いのは「放火」となっています。
放火対策として次のことを行いましょう!

- ①家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- ②ごみ回収日の前夜にごみを出さない。
- ③夜間の施錠管理を徹底する。
- ④人感センサー等を設置する。
- ⑤郵便受けに新聞等を溜めたままにしない。
- ⑥消火器を設置する。



岡崎 市 消 防 本 部

●住宅用火災警報器は作動しますか？

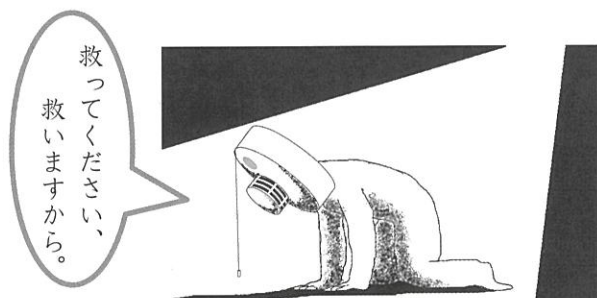
全世帯設置義務化から10年が経過しました。

古くなった住宅用火災警報器は、電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなる場合があります。**設置から10年を目安に本体を交換**しましょう。

◎取り付けただけではダメ！

正常に作動するには、日頃のチェックを！

- ①ひもを引いたり、ボタンを押して作動点検を行い、警報音や音声を聞きましょう。
- ②音が鳴らない場合は、「電池切れ」か「機器の故障」ですので、取扱説明書を御覧ください。



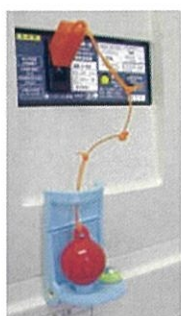
●住宅用火災警報器が功を奏した事例

- 就寝中、寝室の住宅用火災警報器の警報音により火災に気付いたため避難ができ、被害を最小限に止めることができた。
- 鍋に火をかけたままその場を離れてしまったが、住宅用火災警報器の警報音に気付き火を消したため、火災に至らなかった。
- 隣人が住宅用火災警報器の警報音に気付き、早期に119番通報したため、大事に至らなかった。

●感震ブレーカーを設置しましょう！

東日本大震災における**地震が原因の火災**の過半数は、**電気火災**です。電気火災とは、地震の揺れに伴う電気機器からの出火や停電が復旧した時に発生する火災です。地震を感知すると**自動的に電気を止める「感震ブレーカー」**を設置し、家や地域を守りましょう。詳しくは予防課予防係へお問い合わせください。

①



②



地震を感知すると、おもり玉が落下し、ブレーカーが「切」になることで、自動的に電気を遮断します。

